

2024年度（令和6年度）

福山大学での学修を振り返るアンケート
実施報告書

福山大学大学教育センター
教育開発部門

目次

【はじめに】	- 1 -
【方法】	- 2 -
【結果】	- 4 -
(1) 回答率	- 4 -
(2) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思 いますか（知識・技能面）	- 4 -
(3) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思 いますか（態度・精神面）	- 8 -
(4) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？	- 12 -
(5) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当た りますか？	- 16 -
【総括】	- 19 -

【はじめに】

教育とは、学修者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、「何を教えたか？」ではなく、「学修者が、何ができるようになったか？」が問われる。通常、教育者は、教育の効果を試験の結果、すなわち学修成果として認識し把握している。

この点については、自己評価委員会が2004年度（平成16年度）に学生による授業評価アンケート実施して以来、本学のすべての教員は、毎年、学生による授業評価を受けている。2011年度（平成23年度）からは、大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく、学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施することとなった。本学教員は、これらの結果に対するコメントを学生にフィードバックするとともに、個々の授業改善を行っている。

しかしながら、個々の授業においてではなく、卒業時において、「学修者が、何ができるようになったか？」についても、学修成果の把握には重要である。そこで、2015年度（平成27年度）より、卒業時の学修成果を測定する一環として、卒業生を対象とした「学修を振り返るアンケート」を実施している。

令和5年度の卒業生のほとんどは、コロナ禍が始まった年度に入学し、1年生から3年生までの3年間はその影響を最も受けたきた学生たちである。そのような学生たちにとって、福山大学での学習がどのような成果をもたらしたのか、令和5年度も令和4年度に引き続き、大学教育センター教育開発部門が「学修を振り返るアンケート」を実施した。このアンケート調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

令和7年3月31日

大学教育センター長：鶴田 泰人

教育開発部門長：佐藤 英治

IR室：片桐 重和（データ集計・解析）

【方法】

令和5年度の「福山大学での学修を振り返るアンケート調査」（以下、「卒業生アンケート」）を学修支援システム「セレッソ」を利用して、令和5年12月1日～令和7年3月20日の期間で実施した。

① 調査項目

以下の（1）～（5）の設問（計22項目）についてアンケート調査を行った。

（1）福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか：知識・技能面

下記の5項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 一般的な教養
2. 日本語の運用能力（表現と理解）
3. 外国語の運用能力（表現と理解）
4. 専門的知識・技能
5. コンピュータを用いた情報処理能力

（評価段階）

5：大きく向上した	4：向上した	3：変わらない
2：低下した	1：大きく低下した	0：分からない

（2）福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか：態度・精神面

下記の9項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 協調性
2. 創造性
3. 意欲（やる気）
4. リーダーシップ
5. 他者を理解する力
6. チャレンジ精神
7. 知的面での自信
8. 社交面（人間関係）での自信
9. 自己理解

（評価段階）

5：大きく向上した	4：向上した	3：変わらない
2：低下した	1：大きく低下した	0：分からない

(3) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

下記の7項目について調査した。

1. 共通教育（一般教養）の授業
2. 外国語の授業
3. 専門分野の授業
4. これからキャリアに対する授業内容の有効性
5. 教職員による学生支援体制
6. 大学の中での学生同士の一体感

(評価段階)

5：とても満足している 4：満足している 3：普通
2：不満である 1：とても不満である 0：分からぬ

(4) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

(評価段階)

5：100% 4：80% 3：60% 2：40% 1：20% 0：0%

(5) あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？

自由記載

②集計方法

設問（1）～（3）については、各質問項目の回答数に係数（強く肯定する回答には5、強く否定する回答には1）を乗じ、全回答数で除することで平均点を算出した。全卒業生のデータは、この平均点をレーダーチャートで表した。学科単位の卒業生のデータは、この平均値を棒グラフで表した。集計後、各回答数に強く否定する回答にも係数1を与えていたため、最高点は5.0、最低点は1.0となる。なお、「0：わからない」の選択肢については、その回答を平均点の算出には用いていない。また、全卒業生の各質問項目の回答割合を棒グラフで示した。

設問（4）については、回答割合を円グラフで示した。設問（5）については、代表的な意見を整理し、総括に記載した。

【結果】

(1) 回答率

回答率は95.7%（対象者745名、回答数713名）であった。学科別回答率を表1に示す。

表1 【福山大学での学修を振り返るアンケート】回答率					
〔卒業年次生〕		令7年3月20日 締切			
No	学 科	対象者	回答者数	未回答者数	回答率
1	経済 学 科	150	143	7	95.3%
2	国際 経済 学 科	32	29	3	90.6%
3	税務 会計 学 科	33	33	0	100.0%
4	人間 文化 学 科	51	48	3	94.1%
5	心 理 学 科	48	46	2	95.8%
6	メディア・映像学科	35	34	1	97.1%
7	電気 電子 工 学 科	15	15	0	100.0%
8	建 築 学 科	59	59	0	100.0%
9	情 報 工 学 科	44	43	1	97.7%
10	機械 システム工学科	27	27	0	100.0%
11	生物 科 学 科	23	23	0	100.0%
12	健康 栄養 科 学 科	27	24	3	88.9%
13	海洋 生物 科 学 科	106	101	5	95.3%
14	薬 学 科	95	88	7	92.6%
計		745	713	32	95.7%

(注) 対象者：休学中を除く

設問（1）～（5）に関わる結果を以下に示す。

(2) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか（知識・技能面）

全卒業生のデータで解析すると、各項目の平均点は外国語の運用能力（表現と理解）を除いておよそ4点前後であり、概ね良好な結果であった（図1）。

具体的な回答割合を見てみると、「専門的知識・技能」で44.6%の学生が「大きく向上した」と回答しており、最も評価の高い項目であった。続いて、「コンピュータを用いた情報処理能力」29.0%、「一般的な教養」28.6%、「日本語運用能力（表現と理解）」20.9%が高い項目であった。一方、「外国語の運用能力（表現と理解）」で「大きく向上した」と回答したのは、8.7%で最も低かった。

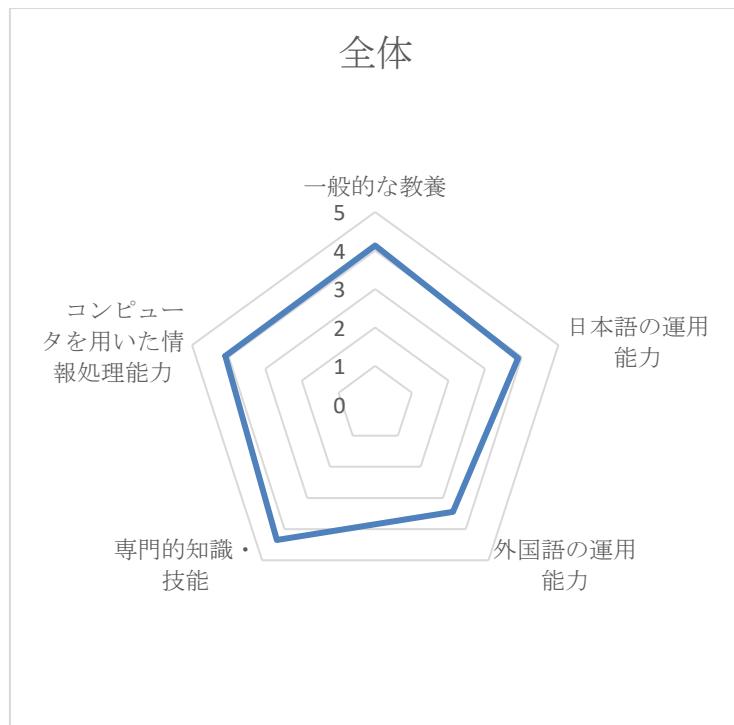


図1 知識・技能面での自己評価（自己評価結果の平均、全卒業生）

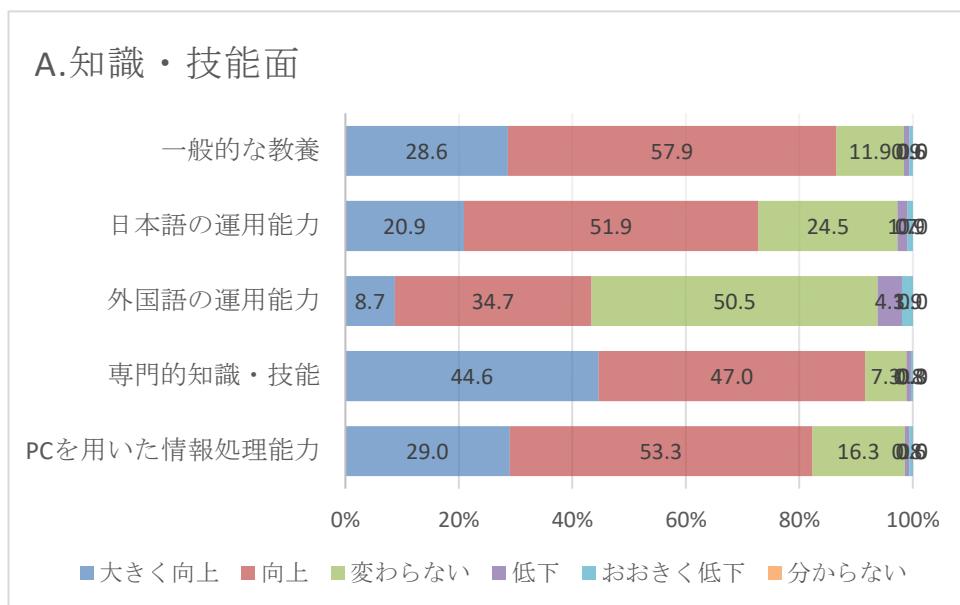
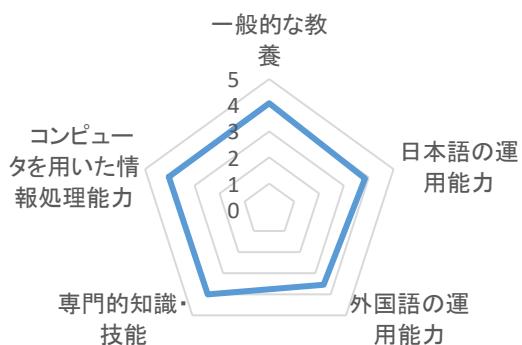


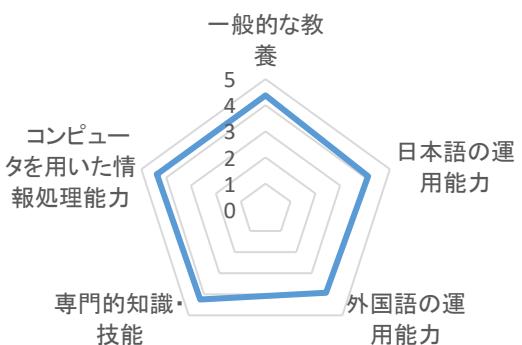
図2 知識・技能面での自己評価（自己評価結果の分布、全卒業生）

学科別に同様の解析をすると、概ね、全卒業生の結果と同様の傾向が認められた。「専門的知識・技能」の質問項目では、メディア・映像学科、情報工学科、健康栄養科学科、薬学科において、「コンピュータを用いた情報処理能力」では情報工学科において、4.5点を超えた高い自己評価が認められた（図3）。また、外国語の運用量力は、全学科において3点台であった。

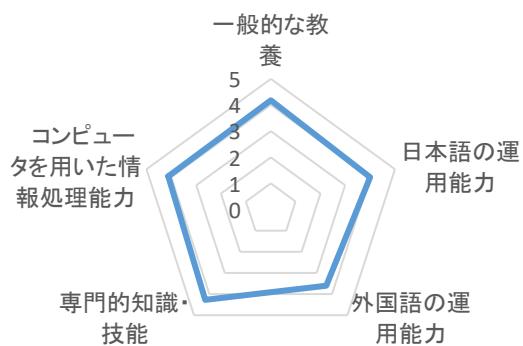
経済学科



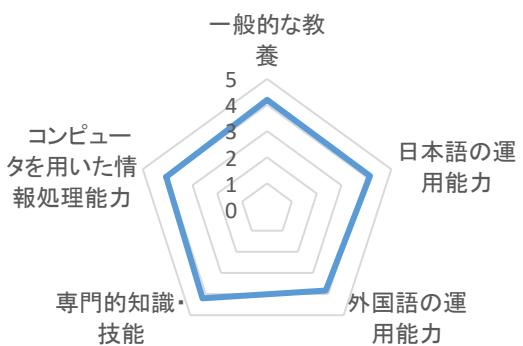
国際経済学科



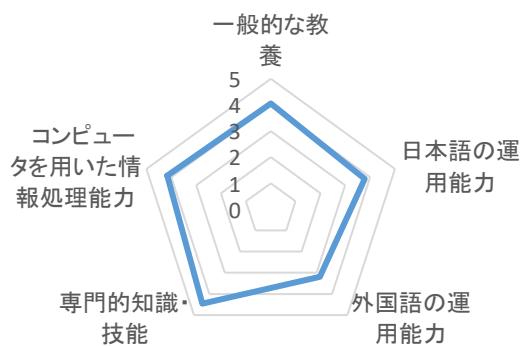
税務会計学科



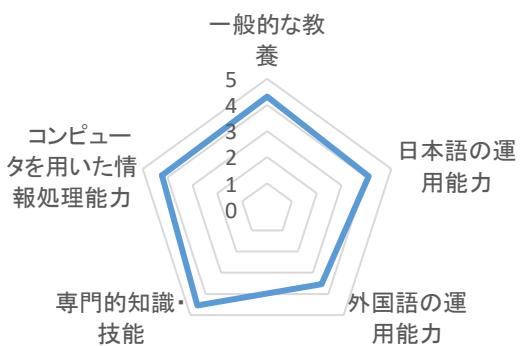
人間文化学科



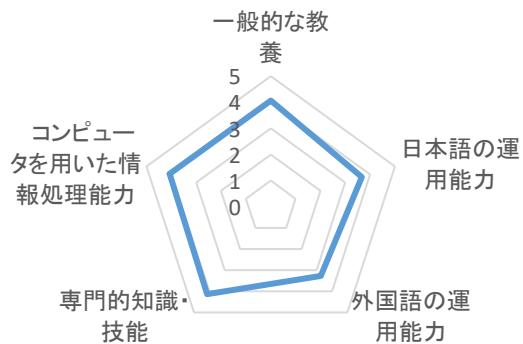
心理学科



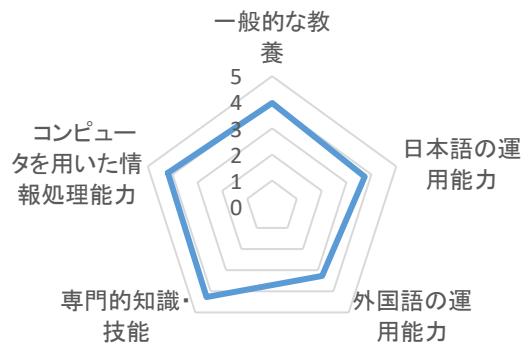
メディア・映像学科



電気電子工学科



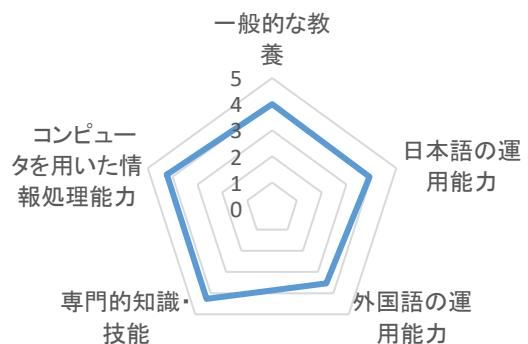
建築学科



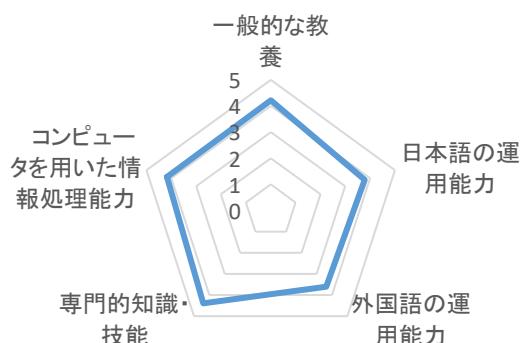
情報工学科



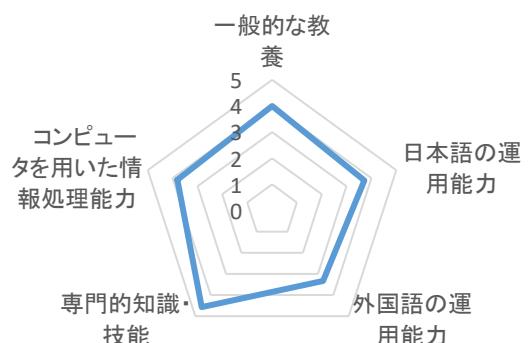
機械システム工学科



生物科学科



健康栄養科学科



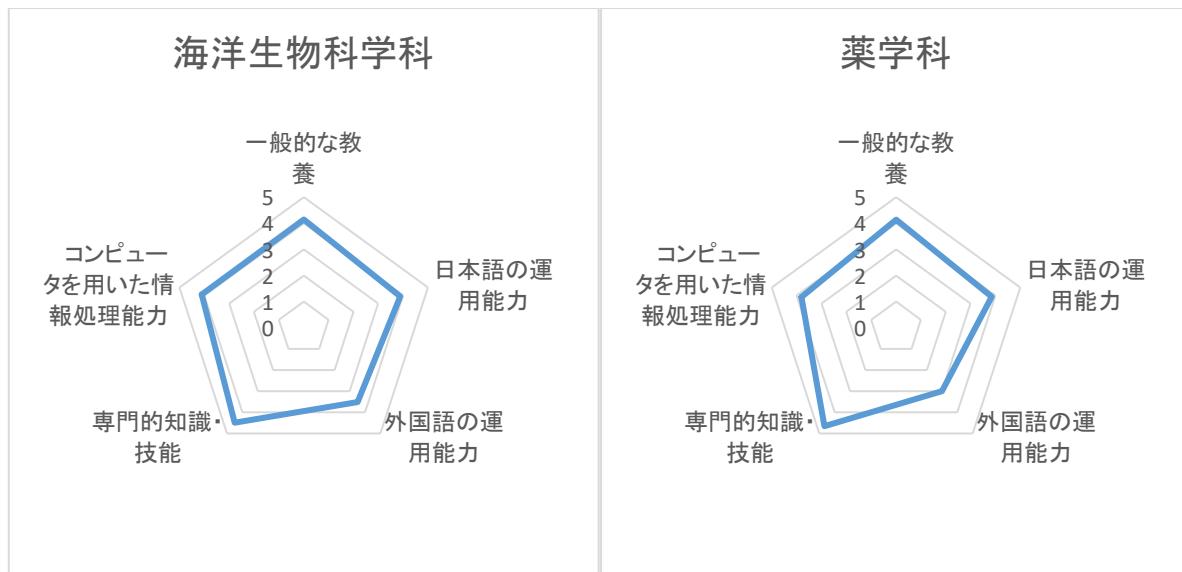


図3 知識・技能面での自己評価（自己評価結果の平均、学科別）

(3) 福山大学での学びを経て、入学前と比べて、あなた自身はどのように変化したと思いますか（態度・精神面）

各項目の平均点は、「リーダーシップ」を除いておよそ4点前後であり、良好な結果であった（図4）。具体的な回答割合を見てみると、「協調性」で32.6%の学生が「大きく向上した」と回答しており、最も評価の高い項目であった。続いて、「他者を理解する力」32.4%、「チャレンジ精神」30.2%、が高い項目であった。一方、「リーダーシップ」で「大いに向上した」と回答したのは、18.2%で最も低かった（図5）。「リーダーシップ」以外の8項目については、「大きく向上した」と「向上した」を合わせた回答率が70%を超えており、自己に対して肯定的な評価を行っていた。

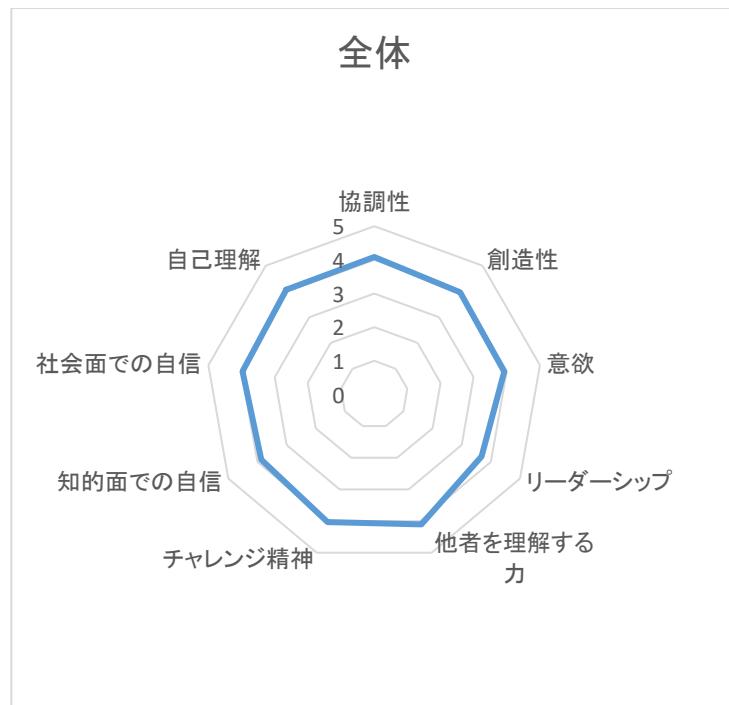


図4 態度・精神面での自己評価（自己評価結果の平均、全卒業生）

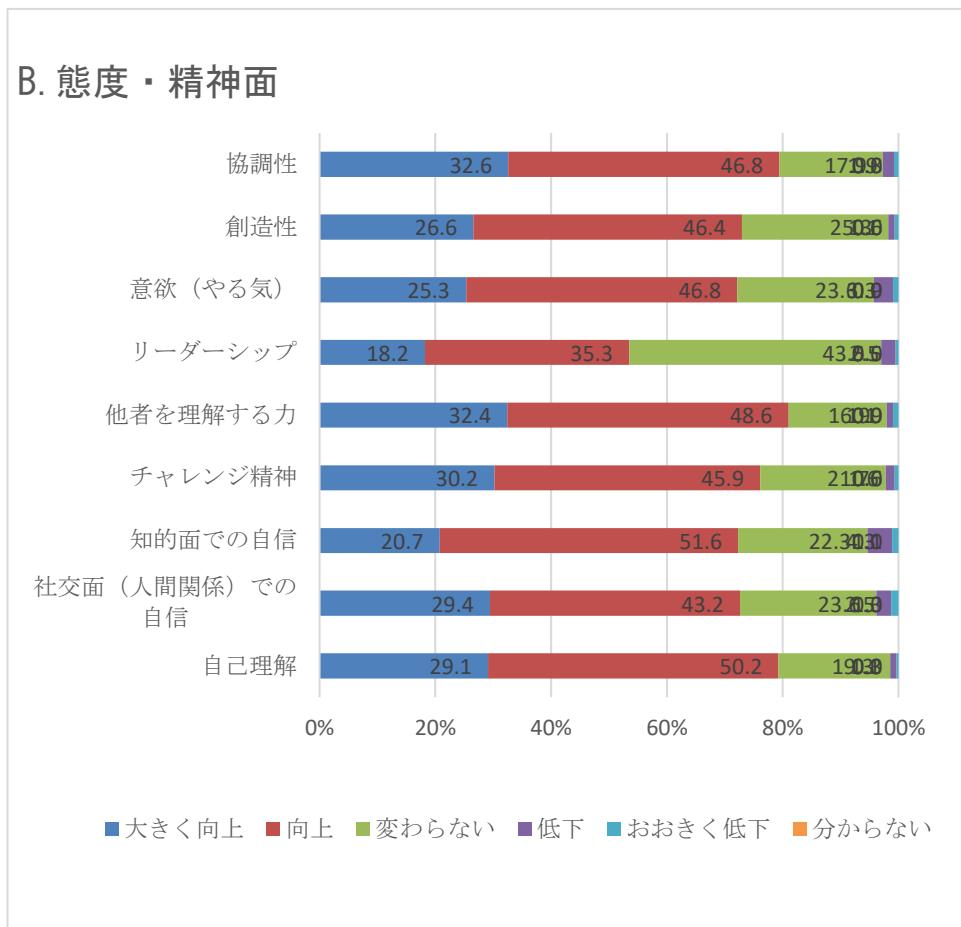
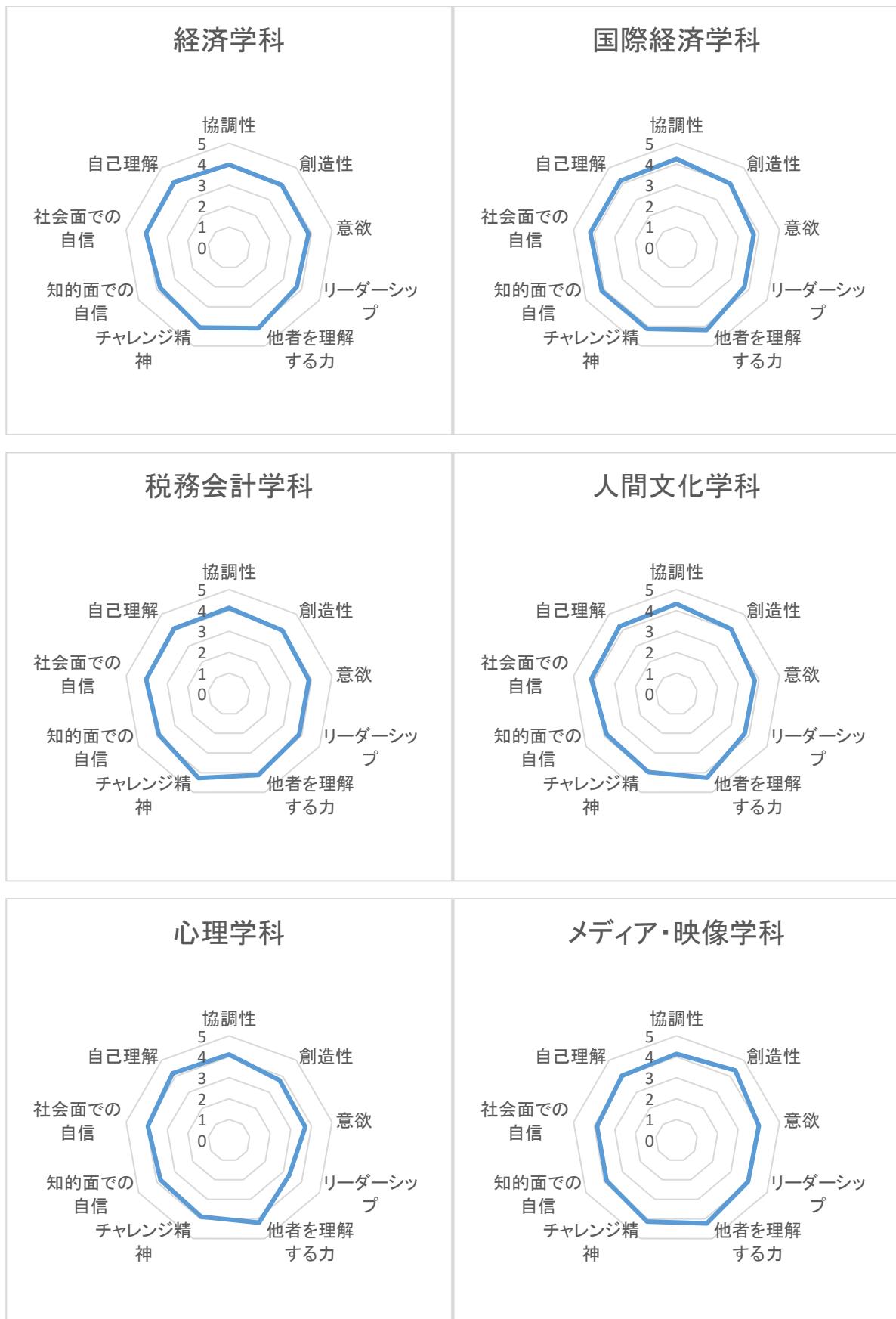
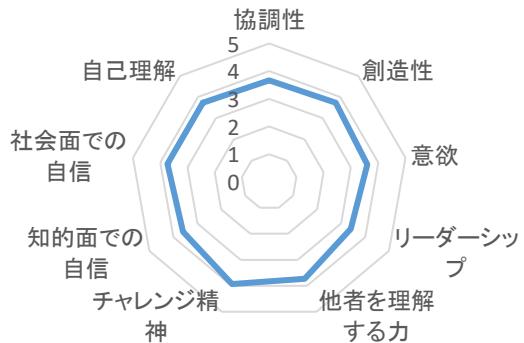


図5 態度・精神面での自己評価（自己評価結果の分布、全卒業生）

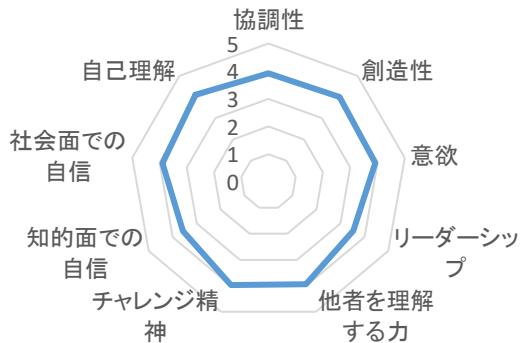
学科別に同様の解析をすると、概ね、全卒業生の結果と同様の傾向が認められた。



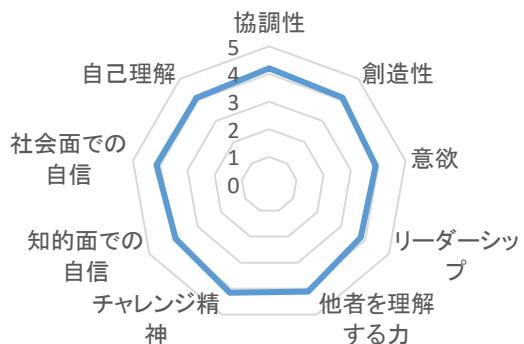
電気電子工学科



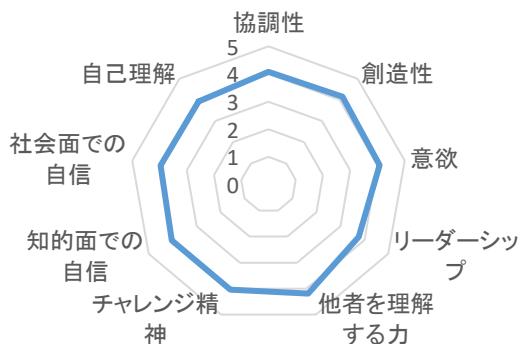
建築学科



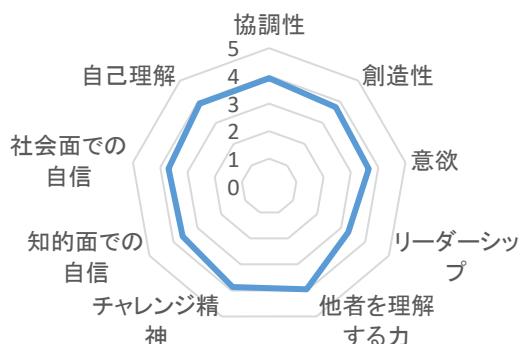
情報工学科



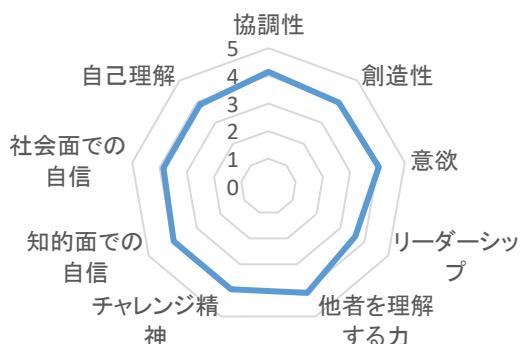
機械システム工学科



生物科学科



健康栄養科学科



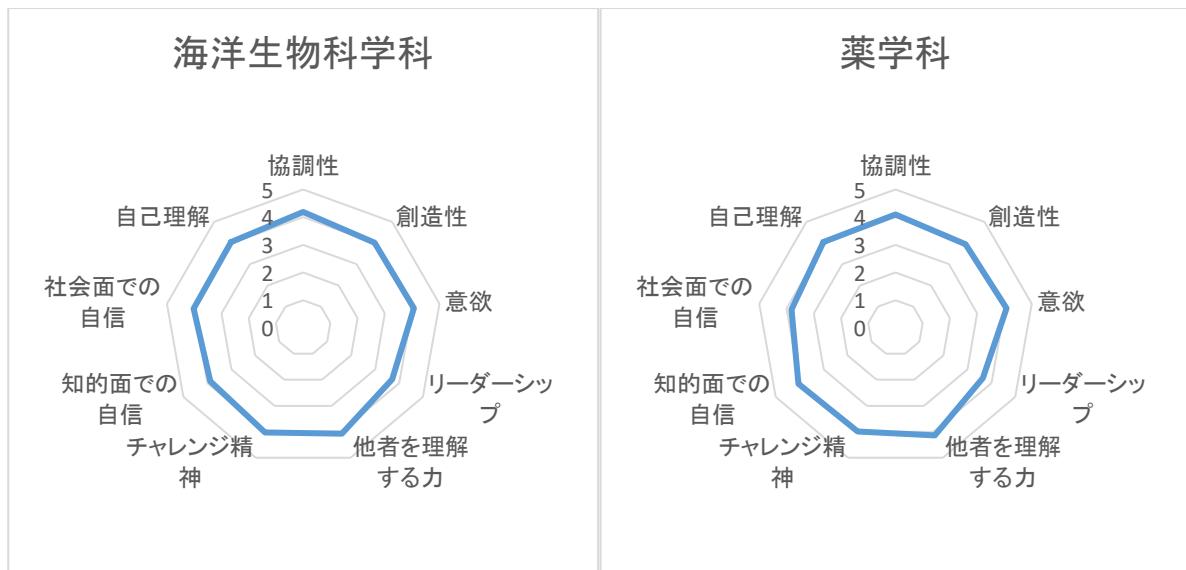


図6 態度・精神面での自己評価（自己評価結果の平均、学科別）

(4) 福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

各項目の評価平均点は、すべての項目で3点台であった。最も評価の高い項目は、「専門分野の授業（3.9点）」、最も低い項目は「外国語の授業（3.6点）」であった（図7）。

具体的な回答割合を見てみると、「専門分野の授業」で79%の学生が「とても満足している」あるいは「満足している」と回答しており、続いて、「教職員による学生支援体制」70.7%、「共通教育の授業」66.3%、「キャリアに対する授業内容の有効性」65.5%、「大学の中での学生同士の一体感」59.6%であった（図8）。

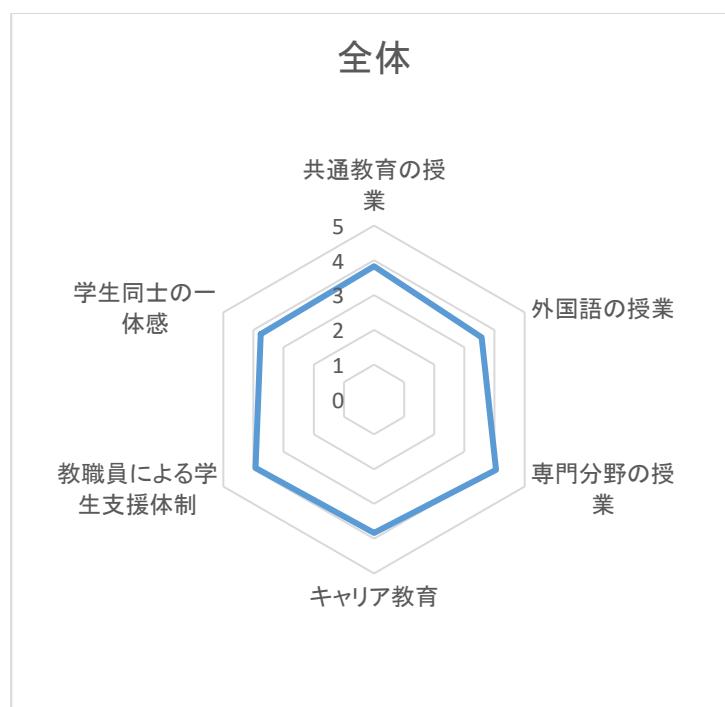


図7 学生生活の満足度（全卒業生の平均値）

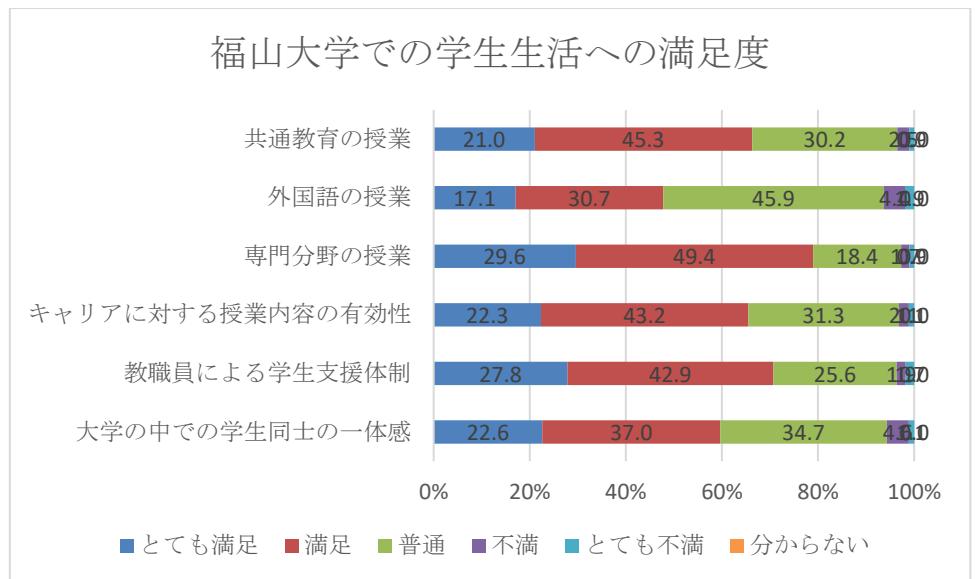
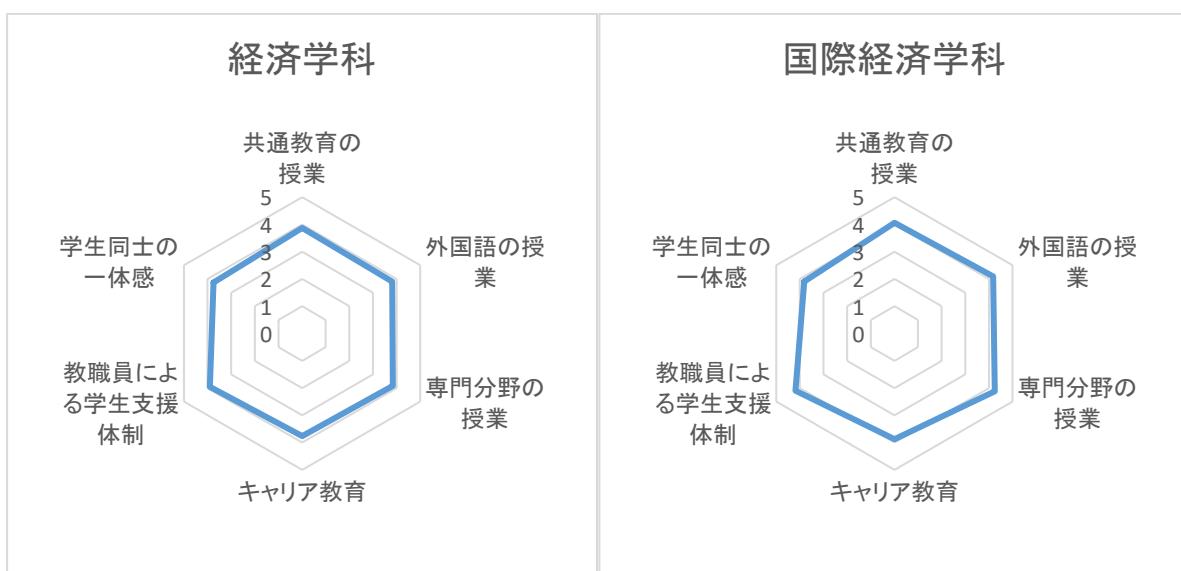
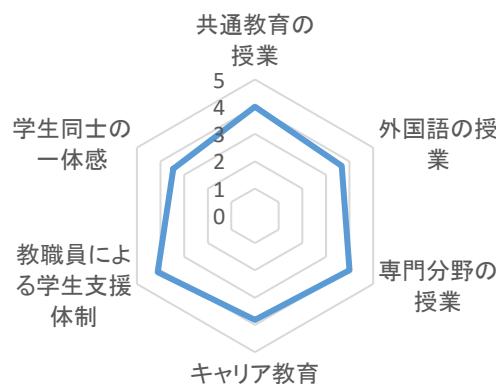


図8 学生生活の満足度（学生による評価結果の分布、全卒業生）

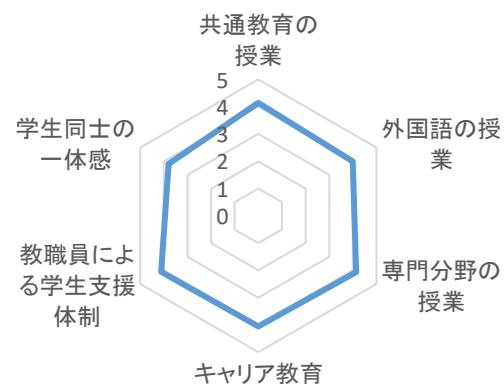
学科別に同様の解析をすると、建築学科と生物科学科ですべての項目において高い評価が認められた（図9）。



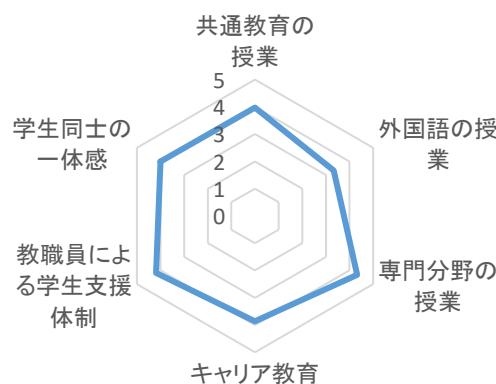
税務会計学科



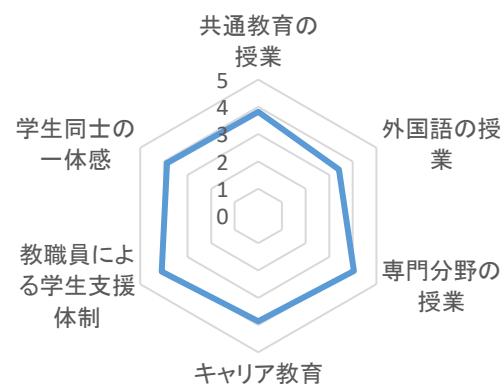
人間文化学科



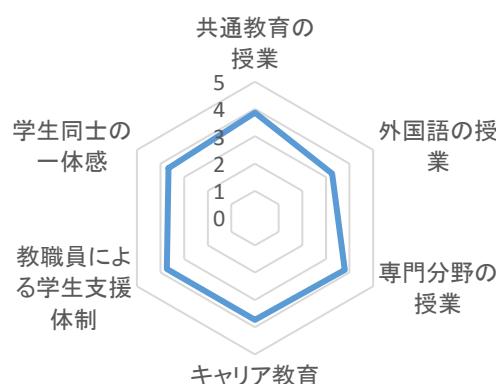
心理学科



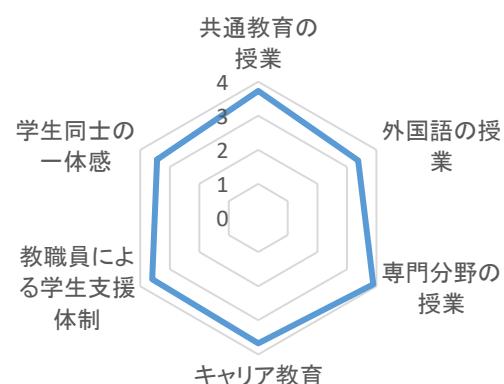
メディア・映像学科



電気電子工学科



建築学科



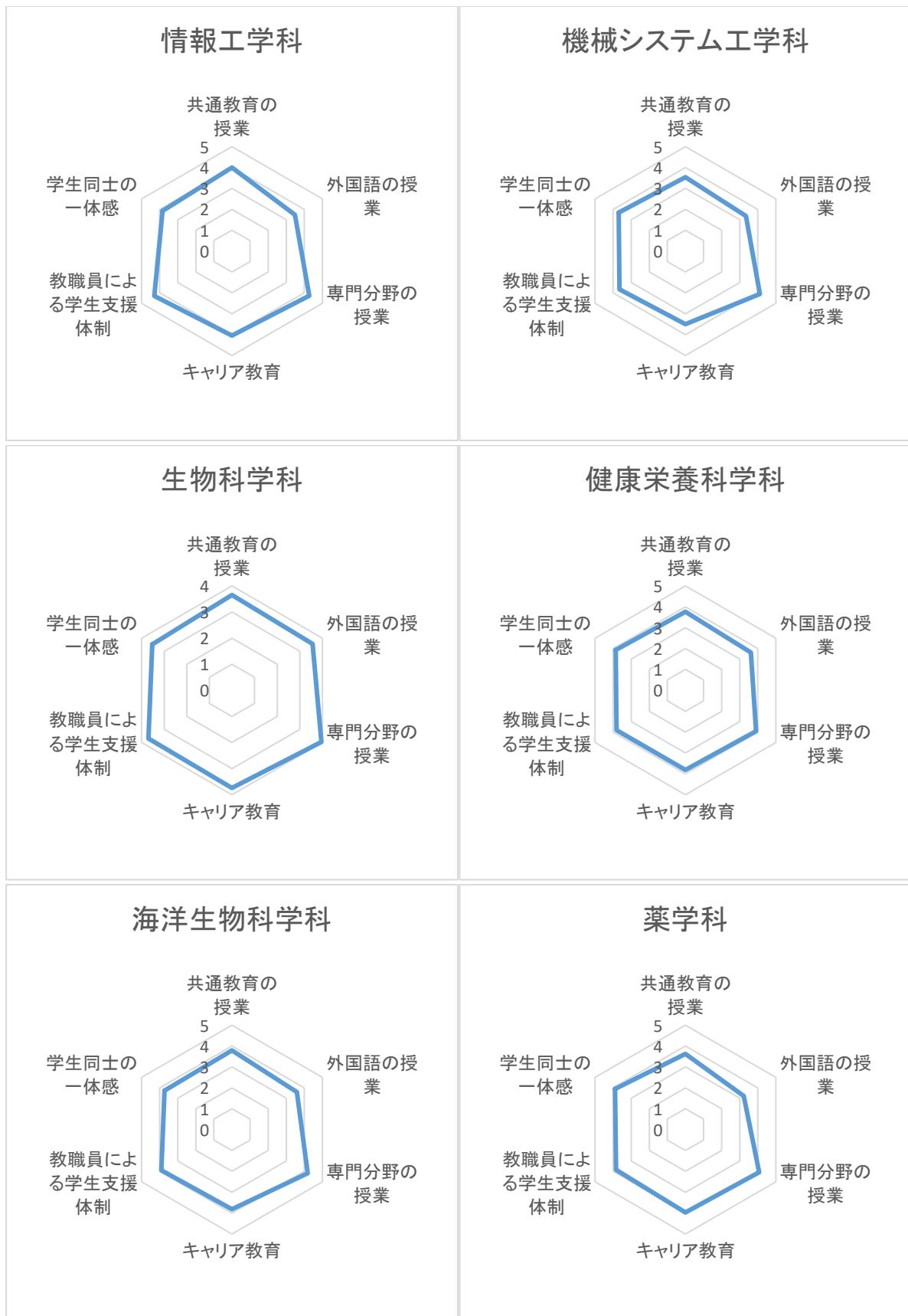


図9 学生生活の満足度（学科別平均値）

(5) 福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

本設問に対して、「100%」あるいは「80%」と回答した卒業生の割合は68.7%であった（図10）。2023年度では63.1%、2022年度・2021年度では70.1%であった。フリーコメントにおいて、コロナ禍での遠隔授業や行動の自粛が残念な点との記載が多くあったため、まだコロナ禍が満足度に影響を及ぼしているもの考えられる。

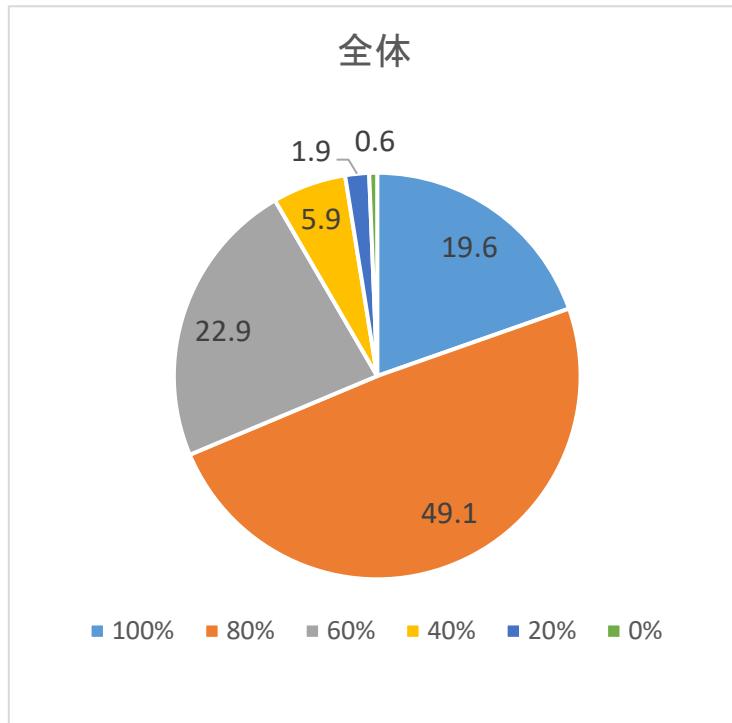
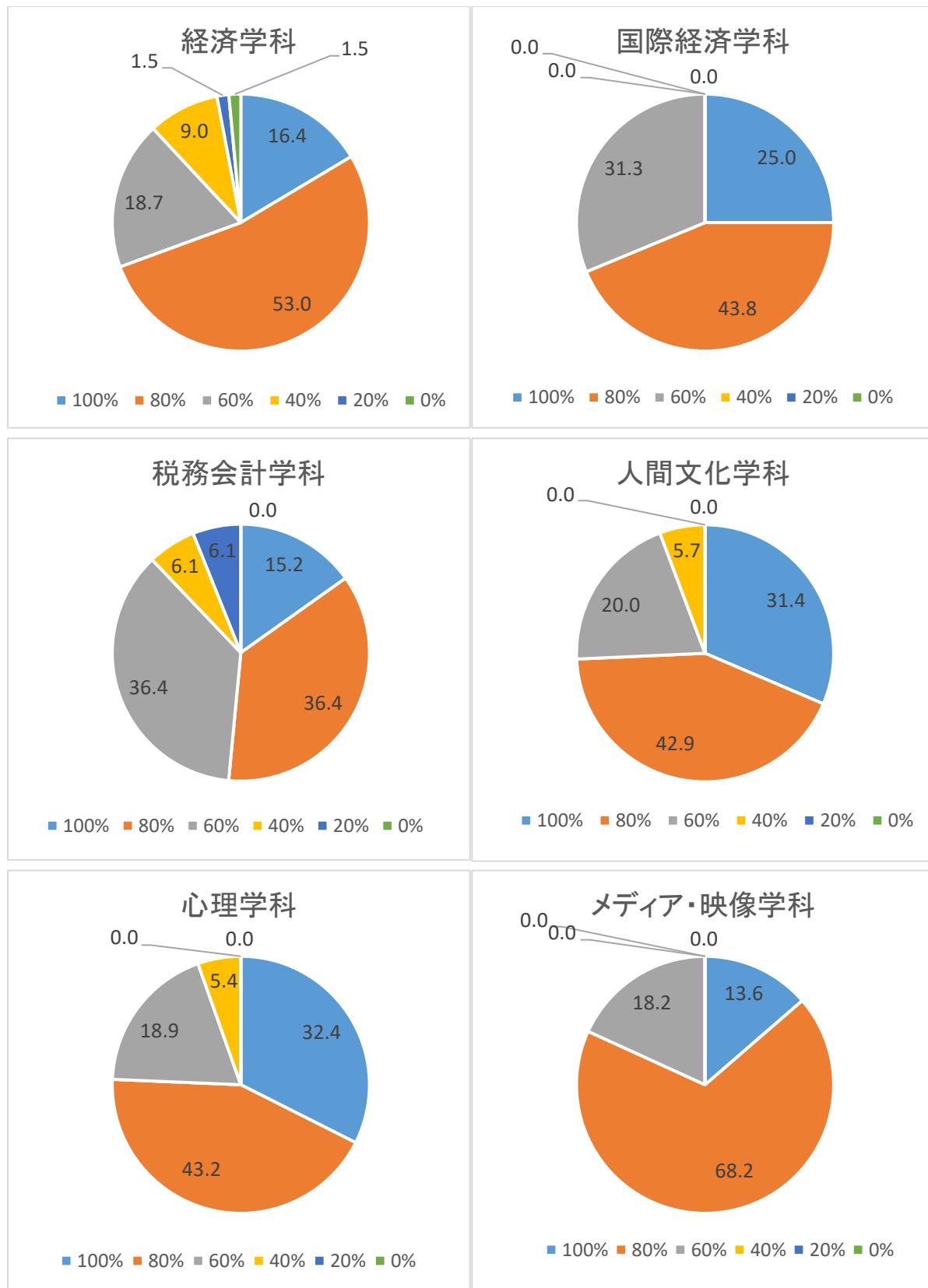
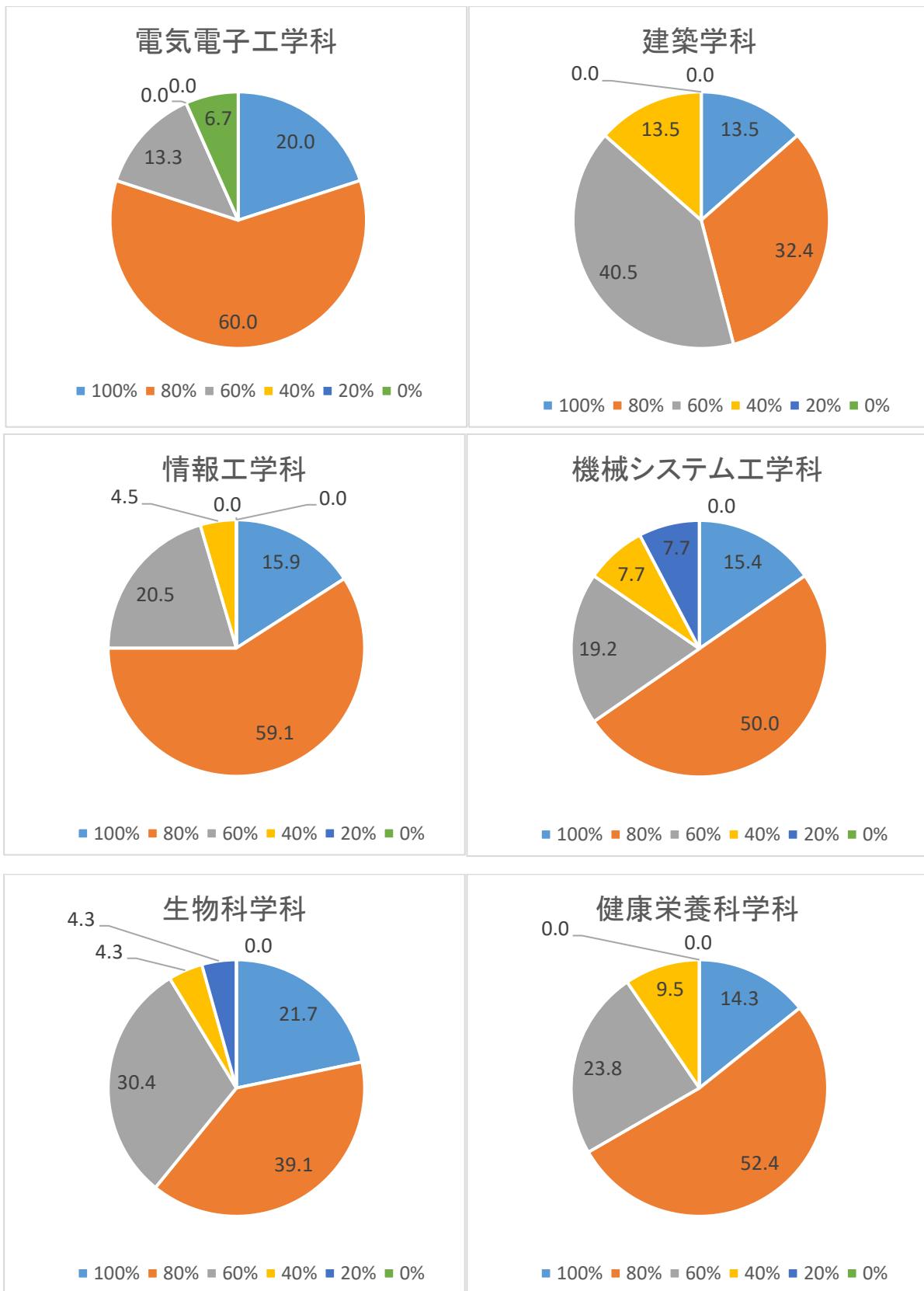
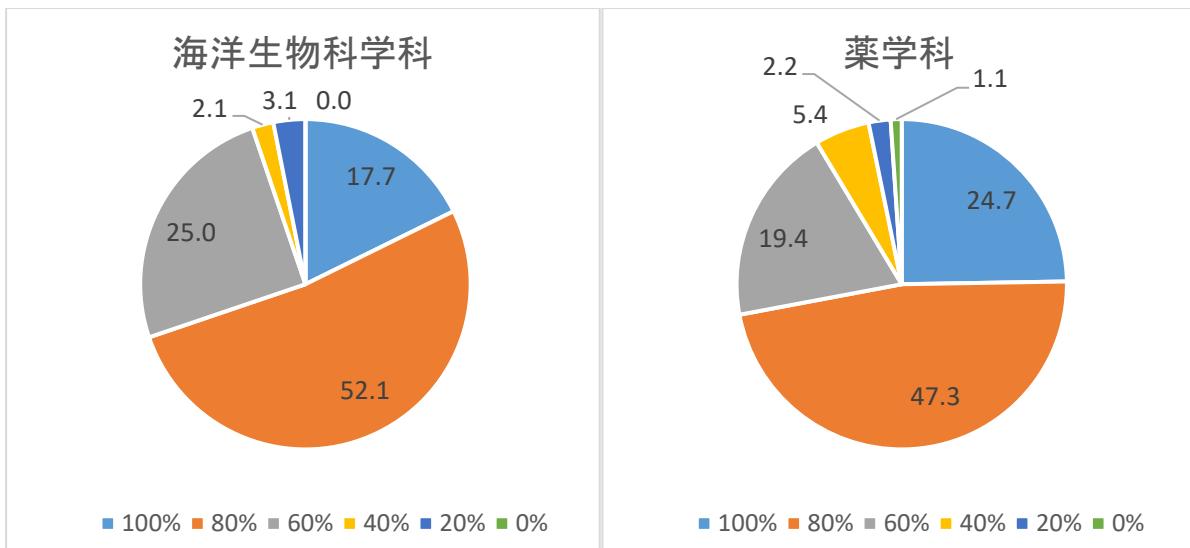


図10 福山大学での学び全体を通しての満足度（全卒業生）

学科別に同様の解析をすると、満足度が「100%」あるいは「80%」と回答した卒業生の割合は、学科により40%台後半～80%台と相違が認められた。この指標を用いたとき、卒業生の満足度の高い学科（「100%」及び「80%」と回答した学生が70%以上）は、メディア・映像学科（81.8%）、電気電子工学科（80.0%）、心理学科（75.7%）、情報工学科（75.0%）、人間文化学科（74.3%）、薬学科（72.0%）、であった。







【総括】

入学直後からコロナ禍により自宅待機とオンライン授業を余儀なくされた令和6年度卒業の学生であったが、前年度卒業生に比べてコロナ禍からの解放が早かったため、福山大学での学び全体を通しての満足度は向上したものと考えられた。

設問（5）「あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？」では、「特になし」を含めて約350件のコメントがあり、「もっと勉強したいという意欲が飛躍的に高まった」「人とのコミュニケーションの取り方」「外国語コミュニケーション」「語学のさらなる学び」「専門性の向上」「他分野へのチャレンジ」「教職などの資格取得」「主体的な学習」など、学修意欲にあふれたコメントが多く見られた。それと同時に、「入学した時からコロナが始まったので、すべてをもう一度やりなおしたい」「他学科の学生や留学生との交流」「友達づくり」「留学」「地域や社会とのつながり」「対面での授業」「コロナ禍のない大学生活」など、コロナ禍での大学生活に対する残念な気持ちを率直に記載している学生が多かった。

ここに示された学生からの声を真摯に受け止め、改革、改善につなげていく必要がある。